

発行所

旭川市旭山動物園  
動物図書館  
☎ 36-1104



09春、新施設エゾシカの森オープン予定

# ASAHIYAMA ZOO

## あざらし館が、ふるさとオホーツクの海に

## アザラシたちの流氷



水中からみるながめは、流氷の下を泳ぎ回っているかのよう真冬の北の海を思わすほど神秘的



空気穴からは、ひょっこり顔をのぞかせたり、出てきたり

冬、北海道の東のオホーツク海には、まるで氷の大陸のような「流氷」が流れます。1000キロ以上もはなれたオホーツク海には、アムール川の水がたっぷり流れ込みます。それを含んだ海水は、冷たい空気に冷やされ氷になって、ゆっくりゆっくりと流れてきます。



さて今年の冬も、あざらし館には流氷がやってきているかのようです。今年の流氷広場は過去最大。大胆にもプールアザラシたちは雪の合間から顔をだし、鼻先で氷のかたまりをつついてみたり。時どき、雪の上で腹ばいになっている姿も見られます。

流氷は、アザラシが子育てをするための大切な場所です。まっ白な流氷は、白い産毛のアザラシの赤ちゃんとの見分けをつきにくくさせ、天敵の目をあざむく効果があります。また、広い海の中で泳ぐ練習をするのに、なくてはならない存在です。

あざらしの出産は3月頃。旭山動物園のあざらし館では、母アザラシのおなががふくらみとしてきています。今年の春に、雪の上で休んでいるアザラシの赤ちゃんに会えるといいですね。

今年は例年に比べると、雪が少なく、とても暖かい冬です。除雪する回数が少なく、しばれが弱いと、私たちは少しやさしいと思いますが、野生のアザラシたちは、そうではありません。

オホーツク海の厳しい寒さがあるからこそ、アザラシたちの流氷の「ゆりかご」ができるのです。今年もアザラシの赤ちゃんがすくすくと育っているように流氷がどまってくれを願います。



昨年、生まれてまもなくの「まめ」

## あさひやまどうぶつえん

# もっと夢

自然エネルギーを活用して環境にやさしい施設に



- アフリカのサバンナをイメージ
- 夏も冬も見られる 通年施設
- “もっと夢”基金を建設の原動力に

### 旭山動物園の夢が徐々に形に...

カバやキリンのくらす総合動物舎が40年以上もたち、古くなってきています。まずは、そんな彼らに快適な施設をつくってあげたいと考えています。

サバンナで生きる動物たちの施設「アフリカ生態園」ここではさまざまな動物たちの生活が実感できるはず。早く見てみたい！そんな願いがこの夢がかなう日を一步一步近づけます

# アフリカ生態園へ

## 復活！モユク★カムイ

ご希望の方は動物園改札口のスタッフまで



お待たせしました。しばらくお休みしていた動物園の機関誌「モユク★カムイ」が発行されます。今回から、編集委員が1人増えてパワーアップしました。気持ち新たに「目標!!」年に4回発行!!と意気込んでおります。春夏秋冬、動物たちの様子や出来事を飼育展示係が「濃く・深く・熱く」発信します。どうぞお楽しみに。

今回の表紙は「シロテナガザル」です。

特集記事「ほくは動物大使」でくわしく紹介されています。今、注目はこの夏施設がリニューアル予定のシロテナガザル!!



あさひやま”もっと夢”基金箱は園内各所に設置しています。ご協力よろしくお願いします。